

せり ぎわ こう じ ろう
芹 沢 光 治 良

ノート (2)

作品『^{パリ}巴里に死す』を読んでもみませんか？



芹沢光治良 (1896-1993) 長女が生まれた産院の建物

作家 (エクリバン)。静岡県沼津市生まれ。人間主義的な作風で知られる。

2022 年

名作『^{パリ}巴里に死す』の著者 —————

せりざわこうじろう
芹沢光治良は1896年5月4日に現在の静岡県沼津市の漁村^{がにゅうどう}我入道で生まれ、^{はたち}二十歳で高等学校（旧制）へ進学するまで住みました。

大学卒業後は、官吏を務めたあと、28歳で22歳の藍川金江と結婚して、フランスに留学しました。



妻・金江と長女・万里子とパリで（1928年頃）

フランスのパリでは、音楽・演劇・美術などの
芸術を鑑賞し、また、作家・詩人・俳優・哲
学者などの様々な文化人と交流し、のちに作家
となる下地を作りました。

のちに、芹沢光治良は、パリは第2のふるさと
だと書いています。



パリの社交界へ夫婦で出た頃 (1925 年)

芹沢光治良の作品について

大河小説 「人間の運命」

長編小説 「巴里に死す」「サムライの末裔」
まつえい

「孤絶」「神の微笑」
ほほえみ」「天の調べ」

など

短編小説 「ブルジョア」「死者との対話」

「落葉の声」など

日記 「芹沢光治良戦中戦後日記」

エッセイ、少女小説、児童物語など幅広い読者を対象とした作品が約 700 点あります。

芹沢光治良がひきうけた役職は ——

日本ペンクラブ会長、日本文芸家協会理事、日本ユネスコ国内委員、日本芸術院会員、ノーベル文学賞推薦委員などです。

日本では勲三等瑞宝章、日本芸術院賞、沼津市名誉市民に、フランスでは友好国際大賞、コマンドール章に選ばれました。



コマンドール章の授章式 (1974 年)

光治良のふるさと我入道には、沼津市芹沢光治良記念館があります。

また、作家生活の多くをすごした東京都東中野の近く、中野区立中野東図書館の特別展示室に、旧中野第三中学校から移設された芹沢光治良記念文庫があります。



中野区立中野東図書館
(東京都中野区中央 1-41-2 電話 03-5937-3559)

長編小説『巴里に死す』は————

太平洋戦争中に書かれた作品です。光治良は、〈戦争の不幸な日々〉をフランス留学中、肺結核に冒された頃の日々に重ね、〈スイスの高原療養所で、死と闘いながら、希望をいだいて、命をつなぎとめようとした暗い記憶のなかに、小説の主題をさがして、戦争中にも絶望しないように〉と自らを励まし、この作品を書きました。



戦争中の1942年に雑誌『婦人公論』に連載され、1943年に単行本として刊行されました。

戦後になると、多くの出版社がこの作品を刊行し、現在まで、80年もの長いあいだ多くの読者を獲得しているロングセラーです。

その魅力は、作品を手にとればわかります。



『婦人公論』に連載された「巴里に死す」(挿絵:猪熊弦一郎・1942年)



中央公論社版（装幀：猪熊弦一郎・1943年）

『巴里に死す』の主な出版年表（初刊年月日）

- ・1942 『婦人公論』1～12月号 中央公論社（初出誌）
- ・1943/8/5 中央公論社（初刊本）
- ・1947/1/10 文潮社
- ・1952/9/20 角川文庫 角川書店
- ・1953/9/8 仏語版 ロベール・ラフォン社
- ・1954/6/25 新潮文庫 新潮社
- ・1958/1/1 仏語版 マブラー社
- ・1958/3/20 ダヴィッド社
- ・1968/2/15 ジュニア版 偕成社
- ・1969/1/15 中国語版 林白出版社
- ・1987/1/1 豪華限定本 成瀬書房
- ・1996/10/10 新潮社（芹沢光治良文学館7 幸福の鏡 収録）
- ・2002/9/12 ロシア語版 イノストラカ社
- ・2012/2/20 勉誠出版
- ・2019/6/17 新装版 勉誠出版

1953年に芹沢光治良の作品で、単行本として初めてフランス語で出版され、高い評価を得ました。また、中国語訳、ロシア語訳も出版されました。



芹沢光治良を紹介した
フランスの新聞記事 (1951年)



フランス語版『巴里に死す』
(1953年)

芹沢作品の魅力のひとは、
“普遍性”です。

🍀 読者からのメッセージ・・・・・・・・

『パリに死す』を読んで



『パリに死す』
(勉誠出版 2012年)




新装版『パリに死す』
(勉誠出版 2019年)



パリにいる娘と離れてひとりスイスで結核の長期療養をする伸子^{しんこ}は、幼い娘に宛てたノートを綴ります。死と向き合いながら、娘と夫への愛と将来への希みを持って生きようとする魂の成長の記録は、生きるよろこびとはなにかを問います。



 結核療養中の伸子は、離れてパリで暮らす
幼い娘と夫に会いたくて、無理をしてクリスマス
のパリにスイスから帰ってきます。

落葉した街路樹も、タクシーの警笛も、急ぎ足
で歩く女の姿も、懐かしくみえます。伸子の心が、
美しい冬のパリを背景に描かれます。



🍀 伸子は、結核療養を諦め、娘のそばに居ようと決心し、理由を偽って医師の許可を得ます。〈神様、… 母親の場所は子供のそばにあります。(それで、) 私が滅びることになっても、よろこびでございます。パリで死にましょう。〉伸子はもう二度と見られないスイスの夕景色を胸のなかに写します。



留学中の絵葉書 オートヴィルのサナトリウム (1928年)

図書館にある本

から触れてみて下さい。

作品の登場人物は、読者とともに喜んだり、怒ったり、悲しんだり、楽しんだりします。

だれにも分かる誠実な文章です。



沼津市芹沢光治良記念館

(静岡県沼津市我入道蔓陀ヶ原 517-1 電話 055-932-0255)

【入手可能な芹沢光治良の主な作品】



『巴里に死す』



『芹沢光治良戦中戦後日記』



少女小説集『緑の校庭』



『孤絶』



『サムライの末裔』



『芹沢光治良文学館』
全12巻



愛蔵版〈神と人間〉
全8冊セット



愛蔵版『人間の運命』
全7冊セット
(新潮社版)



完全版『人間の運命』
本編16巻・別巻2巻
(勉誠出版)

【あとがき】

芹沢光治良が〈魂たましいのふるさと〉と呼ぶパリ。

今回は、そのパリを舞台に描かれた『パリ巴里に

死す』を紹介しました。この作品に皆さんは

どのような印象をもたれたでしょうか。作品と

のすてきな出会いがあることを願っています。

まだまだ、ご紹介したい作品がたくさんあり

ます。次のノートもお楽しみに。

芹沢光治良、そしてその作品について、どの

ようなことでもお問い合わせください。

一周忌を迎えられた芹沢光治良記念文化
財団創設者・岡玲子様の本誌を捧げます。

芹沢光治良ノート（2）

2022年6月6日発行

監修：勝呂奏（桜美林大学教授）

編集：池田三省 劔持直樹 清水美穂 野見山恵美子 不破久温

協力・写真提供：沼津市芹沢光治良記念館

発行：一般財団法人 芹沢光治良記念文化財団

〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-3

メール serizawa.52@nifty.com

ホームページ (URL) <http://serizawa-kojiro.com>



印刷：有限会社マエダ印刷

文学は

もの言わぬ

神の意思に

言葉なき

をなすことだ

光治良